

第23回田原市男女共同参画推進懇話会 次第

日 時：平成26年10月10日（月）

午前10時00分から

場 所：田原市役所南庁舎4階 政策会議室

1 あいさつ

○ 会長あいさつ

○ オブザーバーあいさつ

2 報告事項

(1) 各委員の取組状況・情報提供 【資料1】

(2) 第7回男女共同参画フェスティバル開催報告 【資料2-1】【資料2-2】【資料2-3】

(3) 平成27年度の市の男女共同参画推進施策について 【資料3】

3 意見交換

「地域活動における男女共同参画～わたしのまちの男女共同参画～」

4 その他

市民提案型委託制度【テーマ提示型】「男女共同参画啓発事業」の実施方針について

【資料4】

※次回懇話会開催：平成27年3月頃（予定）

（配布資料）

【名簿・配席表】※当日配布

【資料1】各委員の取組状況・情報提供等 ※当日配布

【資料2-1】第7回男女共同参画フェスティバル開催報告

【資料2-2】第7回男女共同参画フェスティバル出展者アンケート結果

【資料2-3】第7回男女共同参画フェスティバル来場者アンケート結果

【資料3】男女共同参画推進プランに基づく平成27年度実施予定事業

【資料4】市民提案型委託制度【テーマ提示型】「男女共同参画啓発事業」の実施方針（案）

第23回田原市男女共同参画推進懇話会委員名簿

任期：平成25年6月12日～平成27年3月31日

【委員】

		氏名	所属団体・役職	備考
1	会長	河合 熙人	田原市地域コミュニティ連合会 理事（野田校区会長）	
2	副会長	森下 静子	女性会議ウィットWIT 代表	
3	委員	三浦 大輔	一般社団法人田原青年会議所 組織活性化副委員長	欠席
4	委員	渡会 里美	あかばねひらがなの会 会員	欠席
5	委員	中神 信明	J A愛知厚生連あつみの郷 所長	欠席
6	委員	菊池 邦子	社会福祉法人田原市社会福祉協議会 主任	
7	委員	吉武 正康	愛知外海漁業協同組合 代表理事組合長	欠席
8	委員	太田 司	田原市認定農業者連絡会 会長	欠席
9	委員	小久保満晴	愛知みなみ農業協同組合 人事課長	欠席
10	委員	榎本 明美	渥美商工会女性部 部長	欠席
11	委員	北野谷充香子	田原市商工会女性部 副部長	
12	委員	加藤 昌高	渥美半島観光ビューロー 事業推進本部員	欠席
13	委員	大竹 正章	田原市議会 議員	欠席
14	委員	大岩 澄代	田原市更生保護女性会・田原市赤十字奉仕団 理事	
15	委員	石川 妙美	田原市農業委員会 委員	
16	委員	土井真紀江	田原市教育委員会 委員	新 欠席
17	委員	宮本 孝子	行政相談委員	欠席
18	委員	中村 匡	田原市政策推進部長	
19	委員	永田みよ江	公募者	欠席
20	委員	田中 剛	公募者	
21	委員	平野 利依	公募者	欠席
22	委員	鈴木 京子	公募者	欠席

【オブザーバー】

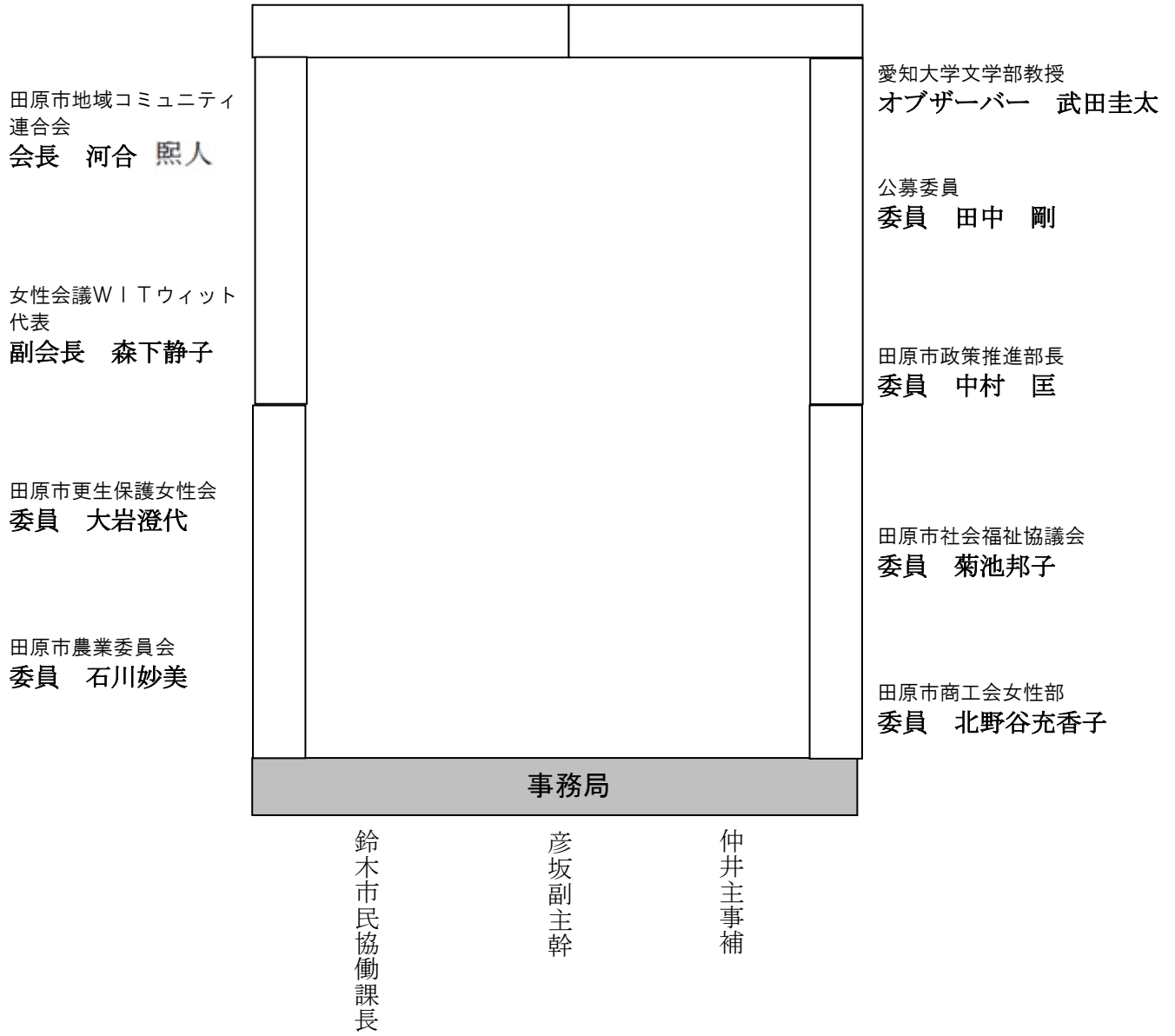
氏名	所属団体・役職	備考
武田 圭太	愛知大学文学部教授	

【事務局】

氏名	所属・役職	備考
鈴木 通之	政策推進部市民協働課長	
彦坂 英美	政策推進部市民協働課 副主幹	
仲井 萌	政策推進部市民協働課 主事補	

第23回田原市男女共同参画推進懇話会 配席表

(敬称略)



入り口

各委員の取組状況・情報提供

1	女性会議ウィットWIT 森下 静子 委員
<p>女性会議ウィット WIT は、26 年度市民協働補助金採択事業に取り組んでいます。</p>	
<p>第 1 回 6 月 14 日（上鶴瀬孝さんの講座）</p>	
<p>第 2 回 6 月 28 日（上鶴瀬孝さんの講座）</p>	
<p>第 3 回 7 月 19 日 愛知県副知事吉本明子さんのお話とパネルディスカッション</p>	
<p>第一部 吉本明子さんの講演</p>	
<p>『女性が元気に働き続けられる愛知の実現をめざして』について</p>	
<p>第二部 パネルディスカッション</p>	
<p>ウィットメンバー4名のパネリストによる発表</p>	
<p>第三部 意見交換会</p>	
<p>グループワークと質疑応答</p>	
<p>参加者【45名】アンケートより</p>	
<p>大変よかったですと思います。パネリストとして参加させて頂きありがとうございました。いろいろな立場、考え方の方がいる。その方々の、いろいろな人のことをしっかり聴くことが大切。また、発信することの大切さ、</p>	
<p>そうすれば、互いに違いを認めながらも理解できる。参加してとても良かったです。ありがとうございました。</p>	
<p>なかなか副知事の話聞く機会のない私にとってとても新鮮で勉強になりました。ありがとうございました。グループディスカッションもパワフルな話に感動しました。</p>	
<p>グループにわかれての話し合いの時間をもう少しとってほしかった。副知事の話は目標としてはすばらしいので、ぜひ実践していただきたい。</p>	
<p>グループに分かれてディスカッションはいいアイデアだと思いました。時間が短くて残念でしたかつ各自の意見を出し合う大切さを感じました。ちょっとした工夫ですね。他人事ではなく自分のこととして意見を出すということはそういうことだと思いました。</p>	
<p>いろいろ話をきけて良かったです。</p>	
<p>吉本副知事の全国レベルの高い話と具体的な実感のこもる話は参考になりました。田原で女性の皆さんが地域で様々な取り組みをしている事に驚き、刺激を受けました。</p>	
<p>愛知県の対応（現場）についてのお話を副知事さんに聞いていただいて満足しました。たいへん素晴らしい有意義な集いが出来ました。有り難うございました。</p>	
<p>吉本副知事の話聞き、田原市の女性も元気を働き続ける環境作りが大切だと思った。それには行政と市民が一体となって、意識改革し、女性を支援していくこと、人材育成をする課題はたくさんあると思う。今後もウィットの研修に参賀し女性の活躍できる場を考えていきたい。</p>	
<p>今回はとても良かったです。若者の貧困について話して下さったパネリストの方にエールを送ります。発信すること、聴く耳をもつこと これが大切ですね。そして少しでも前に進みたいと思いました。</p>	

第4回 「高齢期の幸せな生き方」を映画から考える講座

講師：高野史枝さん

「しあわせな高齢期を送る鍵はなに？」

～映画で味わうさまざまな人生～

フランス映画『しあわせの雨傘』に見る女性の気づき

参加者【40名】アンケートより

男だから、女だからではなく、できる人がやればいい。夫を変えるのは簡単ではないですが、息子には、男女平等を当たり前のように今からでもできるようにしたいと思います。

渥美半島の女性に、素晴らしい力強いエールをありがとうございました。

いろいろな才能が秘められているんだなあとあらためて気づかされました。私自身映画はあまり見ませんが日々務めて自分の才能を見つけ発揮していきたいと思いました。

初めての参加でしたのでただ驚きと喜びの一言でした。

これからたくさん映画を見て、心豊かな人生を送りたいと思いました。

幸せな高齢期を送るカギは、映画を見るのがいいと思います。

映画を見ることはほとんどありませんでした。

男性優位がまだまだ染みついている私です。

高野さんの話を聴いて幅広く視野を広めるべく 感性を高めるべく 映画をたくさん見るように心がけたいと思います。楽しかったです。ワクワクして意欲が出てきました。

古い映画を見て昔は感じなかったことを見つけたときはうれしいです。

本でも音楽でも物の見方が年とともに深くなる気がします。男女 関係がなく、年を重ねて中身が充実して生きていけたらいいと思いました。

この映画は今から生きていく人に大変糧になりました。前を向いて明るく自分でできるだけの努力をして生きていく希望をいただきました。

ありがとうございました。

これからも人生にプラスになるような場所（講演会など）を作ってください。

2

厚生保護女性会 大岩 澄代 委員

校区により、コミュニティへの参加など違いはありますが、できるだけそういったものに参加して、他の団体などと意見交換するのも大切だと思います。

3

農業委員会 石川 妙美 委員

農業委員になったばかりでまだまだあまり活動もできていない状態なので、特にとは言えませんが、家族経営協定を推進したり、農業者年金等の加入を進めたりしています。

【男女共同参画の視点で考える防災のまちづくり】

8月のフェスティバルで懇話会活動発表の「DVD 男女共同参画の視点での避難所づくり」は、原版は約30分 短縮版は約15分と短いため、小さな集会から大きな集会に、また、団体の学習会や役員座談会・グループのあつまり・NPO活動・職場での防災講座等、幅広く利用できる内容です。

1000人規模で行われた田原市の防災訓練の様子を、ケーブルテレビで観ましたが、参加者が「災害はいつ来るかわからない、明日かもしれない」という危機意識を持ちながら訓練されている様子が伝わってきました。

校区でも防災訓練は毎年実施されていますが、例年通りが多いためか新鮮さがありません。地域行事は「世帯から1人」が原則なので、世帯主の男性が参加すれば、女性は家で留守番という形が普通、我が家は夫と二人で参加しますが、珍しい存在です。

3.11 東日本大震災の教訓から、内閣府から「男女共同参画の視点に立った災害対応」が出されています。巨大災害に遭遇した場合、男女では受け止め方が違う事をふまえ、避難所における留意点、女性や子供に配慮した備蓄品の必要性など、細かな指針が出されています。

田原市において、もし東日本大震災並みの地震と津波が起きた場合、私はどうするのか？家は潰れないか？大津波が来て、多くの人は安全に避難できるのか？家族は？もし避難生活を送ることになったら、避難所運営は誰がやるの？次から次へ不安がよぎります。この不安を目隠しの先送りではなく、当事者として想像の翼を広げる事が大事ではないかと考えます

田原市として「男女共同参画の視点で考える防災」の考え方はあるのでしょうか？もしも、今後の政策課題ならば、政策形成の候補の一つに男女共同参画懇話会を考えていただけるとやる気が出ます。

ネットでの検索ですが、自治体発行の「男女共同参画の視点で考える防災ノート」「女性の視点で考える防災力ノート」などを見る事が出来ました。防災意識の啓発と市民協働、男女共同参画の視点からの実用ノートの様に感じました。

田原市の男女共同参画の視点からの防災は現在どの段階にあるのでしょうか？冒頭のDVD活用から視野を広げて考えてみました。

小渕優子経済産業相など安倍 2 期内閣に女性閣僚が 5 人も座った。結局、第三の矢、成長戦略の成功のためにはどうしても女性の労働参加が不可欠ということで、政府から変えようということのようだが、まるで“女性バブル”のようである。政府官庁の局長級ポストにも無理に女性を座らせたようだ。

今回の会議の資料に、50 年後の日本の人口は放っておけば「8000 万人」という予測にどう対処するかという文章を紹介した。あれこれ手を打って一億までには何とか修正できたそうだが、そんなに上手くいくとは思えない。この「危機の対処」のために女性の労働参加と少子化対策があるのは言うまでもない。

戦後の急成長には男達が企業戦士として死にもものぐるいで働いて身を削り、世界二番目の経済大国になった。今度は中国に抜かれた世界三位の経済ランキングを死守するために女性の尻をひっぱたいているように思えてならない。そこへ新聞のコラムに私の思いと同じ意見が載ったので紹介した。男女共同参画とは女性の労働力を増やすためにあるのではなく、人権の大切さ、差別を無くした社会こそ私達の目指すこれからの日本の姿だと思う。経済ランクなど世界で 10 番目くらいが日本の身の丈に合って、男も女も人間らしく生きる最適な位置ではなかろうか。

♣ 添付資料あり (5、6 ページ)

- ① 天声人語
- ② 50 年後は 8000 万人

朝日新聞 天声人語 26年9月6日(土)

女性のプロ野球ファンが目立っている。広島を応援する「カープ女子」は知っていたが、オリックスには「オリ姫」、阪神にも「TORACO トヲコ」がいるそうだ。サッカーにもセレッソ大阪を「セレ女」が後押しする。女子といえば以前は少女を指した。いまは大人の女性も女子と呼ばれ、みずから名乗りもする。この現象を取り上げた米澤泉さんの『「女子」の誕生』によると、女性達はそう名乗ることによって、良妻賢母という規範を軽妙に脱ぎ捨てようとしている。なるほど旧来の規範にこだわる向きの多い安倍政権で、5人の女性閣僚が起用された。その一人である松島みどり法相のきのうの記者会見が目をついた。5人中、法相を含め3人が旧姓で政治活動をしてきたことに触れ、現実には不便であると指摘した。大臣の辞令をめぐる話が興味深い。戸籍名で書かれ、カッコの中に松島とあった。「本当は私、反対にして欲しいですけども」。働く女性が困らないような現実的な運用を議論したいという。この内閣で選択的夫婦別姓の議論は進むだろう。「女性が輝く社会」の実現を首相は掲げる。女性活躍担当相というポストも出来た。大きな方向としてはいいが、「成長戦略」の柱という位置づけはどうか。結果として経済に寄与することはあろうが、単に労働力という数字のために女性を利用する、という発想なら疑問だ。哲学者カントは言った。人を手段としてだけ使うな、目的として扱え、と。道具にされては輝けない。

① 50年後は8000万人**50年後、日本の人口は8000万人に減り、「経済小国」となっている**

いまから50年後、日本の人口はどうなっているのでしょうか。国立社会保障・人口問題研究所が昨年1月に発表した「将来推計人口」によれば、2060年の日本の人口は8674万人、今の7割にまで減ってしまうといいます。同時に少子高齢化がさらに進み、65歳以上の老年人口の割合が現在の23.0%から39.9%まで上昇するとしています。

さらに、日本経済を支える生産年齢人口は（15～64歳）は8173万人から4418万人へと、46%も減少してしまうということです。生産人口の減少は、国力の弱体化につながります。OECD（経済協力開発機構）が昨年公表したレポートでは、日本のGDPが世界で占める割合は50年後にほぼ半減、すなわち2011年に6.7%だったGDPシェアが2060年には3.2%に落ち込むと予想されています。日本はこのままいけば「経済小国」への道をまっしぐらに進むことになるというわけです。このような人口減少の予測に対して、打つべき対策はあるのでしょうか。たとえば、子どもを産む前提として、若者が今よりもっと結婚しやすい環境を整えてあげることが考えられます。国立社会保障・人口問題研究所が2010年に行った「結婚と出産に関する全国調査」で、未婚者に「結婚へのハードル」を最大2つあげてもらったところ、「結婚資金」が43.5%でダントツのトップでした。2位は「結婚のための住居」（19.3%）で、経済的な問題が「非婚化」の最大の

障害となっていることが明らかになりました。つまり、結婚する人数を増やすためには、若い世代の経済環境を向上させる必要があるということです。しかし少子化対策としては、結婚しやすい環境を整えるだけでは十分ではありません。いまは結婚していてもさまざまな理由で子どもを産まない・産めないカップルも多いからです。子どもをなぜ産まないのか。国立社会保障・人口問題研究所の2010年の調査では、自分が理想とする人数の子どもをもたない理由（複数回答）として、圧倒的に多かったのが、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（60.4%）という理由でした。やはり、結婚したカップルにとっても「経済」の問題が最大のハードルなのです。また、最近では「マタニティ・ハラスメント」という言葉が使われるようになりました。これは職場で、妊娠した女性に対する嫌がらせが起きているという問題です。連合の調査によれば、妊婦経験者のうち、26%もの女性が「マタハラをされたことがある」と回答したということです。子どもを安心して産めるような職場環境を整えていくことも求められているのです。

では、このような課題を解決するための少子化対策として、安倍政権はどんな政策をとろうとしているのでしょうか。

安倍政権の少子化対策として頭に浮かぶのが「女性手帳」です。これは、妊娠や出産の適齢期に関する知識を啓発するため、政府が若い女性に配布することを検討していたものですが、「女性の生き方の選択に国が干渉すべきではない」などと批判を受けて、撤回せざるをえなくなりました。少子化問題のカギは若者世代の経済環境の改善にあるはずなのに、精神主義で乗り切ろうとしている感が否めません。

参院選の公約では、不妊治療の費用の助成や保育所の待機児童解消プランを掲げており、安心して子どもを産める環境を整えようという志向はみられるのですが、はたしてそのような施策で、今後急速に進む少子化を食い止めることができるのか疑問が残ります。若者世代の経済環境の改善という点では、アベノミクスの「3本の矢」で経済成長を回復させるとしています。ただ、安倍政権の政策は企業の競争力強化に重心をおいているといえ、企業の利益が働く若い世代にきちんと還元されるのか、その道筋は具体的には見えていません。むしろ来春以降に予定されている消費税のアップによって、経済力の弱い子育て世代の家計がさらに苦しくなることが予想されます。それにより、少子化に歯止めがかかるどころか、より一層の少子化に拍車がかかってしまうのではないかという懸念があります。このように、安倍政権の今後の施策次第では少子化を止める抜本的な対策を打つことができず、日本の人口減少の流れを食い止められないだろうという可能性あります。

このままでは結局、国立社会保障・人口問題研究所が推測したとおり、日本は少子高齢化の道をひた走り、50年後にはいまの7割の人口しかない「経済小国」となっていることでしょう。

◎早くも 10 月。

おおぜいの方の参加で活気のあった男女共同参画フェスティバルからあつというまに日が経ちました。秋風が吹き、季節の移り変わりを肌で感じる日々です。そんな折、月日の経過をテーマに、「男女共同参画」について振り返ってみました。

◎施行から 15 年。

男女共同参画基本法の公布、施行から 15 年。もう 15 年なのか、まだ 15 年なのか捉え方はいろいろ、というところでしょうか。

共同参画社会のイメージとしてあげられた、1) 職場に活気 2) 家庭生活の充実 3) 地域力の向上は今どうなっているだろうか。

目指す「ひとりひとりの豊かな人生」に向かっているだろうか？

白書などの情報を共有しつつ、身近なところでどうか、

この 15 年の変化について意見交換ができたらいいな、と考えます。

◎26 年度 男女共同参画週間のキャッチフレーズ

「家事場のパパ力」(若い人たちが考えたキャッチ、斬新)

昨年は「紅一点じゃ足りない」(最初の紅一点になる勇気、次に続く勇気)

22 年度「話そう、働こう、育てよう。いっしょに。」(いっしょにというところがいい、そして話そうがだいじと思う。)

どんどん具体的でわかりやすいキャッチフレーズに。

「やってみる？その一言で社会が変わる」というのもありました。

◎これから

上のフレーズのような社会の中で育った子どもたちが、

自他尊重の気持ちや行動の仕方を身につけ

「ひとりひとりの豊かな人生」に向かえますように。

そして大人は培った知恵を生かしてそのモデルになれますように。

第7回男女共同参画フェスティバル開催報告

1 概要

日時	平成26年8月24日（日）10:00～16:00
場所	田原文化会館多目的ホールほか
テーマ	「地域活動における男女共同参画～わたしのまちの男女共同参画～」
目的	市民に男女共同参画の意識を啓発し、田原市男女共同参画推進プランの目標「みんなが自分らしく輝けるまち・たはら」を目指す。自分らしく活動する市民活動団体や来場者が交流し、自分らしく生きる人と人とのつながりが広がることを期待する。
開催内容	○市民活動団体等による活動発表、パネル展示、手作り品販売、ワークショップ等 ○映画「そして父になる」（監督／是枝裕和）上映
参加団体	市内外で活動する個人・市民活動団体26団体
来場者数	全体延べ人数約600人、映画上映会330人

2 状況写真

○ステージ



▲オープニング



▲ステージ発表

○ブース出展



▲販売ブース



▲パネル展示



▲文化ホール前バザー



▲文化ホール前バザー

○映画上映



▲市長あいさつ



▲会場の様子

3 懇話会委員反省意見

フェスティバル全体について

開催時間、場所	<p>○時間は10時ととても行きやすく、場所もとてもいい。（「良かった、妥当」という意見9人）</p> <p>○終了時間については、映画上映があるため仕方ないのかな。（映画終了後に買い物される方も多かったので）</p> <p>○午前10時から文化ホール</p> <p>○多目的ホールがどうしても閉鎖的になり、関心を持たれない。</p>
ステージ発表	<p>○今までの中で一番多く聴いてくれる人がいた。</p> <p>○懇話会の女性の視点の避難所作りはこの種のテーマだったので面白かった。</p> <p>○ただ見ているだけではなく、見ている人達も何かしら参加できるようにすると楽しく話も聞けて勉強できる。</p> <p>○音響が悪いため集中できず、途中であきてしまう。音響設備の充実が必要。（「音響が悪い」という意見5人）</p> <p>○内容はとても充実していたが、会場内の雑音でよく聞こえなかったり、発表内容に集中できなかった。（「雑音、ざわつきが気になる」という意見3人）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○全体を少し暗くして、ステージにスポットを当てても良いのかなと思った。 ○欲を言えば、「やりたい人」に発表させることもいいが、会議で提案検討し、「させたい人」に発表してもらうことも検討すべき。 ○男女共同参画のテーマ講演については文部省や県に問い合わせれば講師派遣が可能だと思う。こういう人が難しければ、近辺にもいい人はいるのではないかな。
ブース	<ul style="list-style-type: none"> ○出展する団体によってとても個性が出ていて見やすく良い。スペースが広く歩きやすい。多目的ホールとオープンスペースや通路を使ったこの規模で結構。 ○①グループのテーマを持ち展示する②販売の目的③テーマと販売を兼ねる この3つに分けられていて、ゆとりもあり良かった。 ○ブースの展示内容と、フェスティバルの開催主旨との関係がよくわからなかった。(フェスティバル支援団体の紹介なら理解できるが) ○文化ホール側の出展と多目的ホールまでの通路にほとんど何もないことで、食品系ブースと多目的ブースでは別のイベントをやっているようだった。関連付けが弱い。中庭の見える辺に何かブースを作っても良いのでは。 ○展示パネル等も、映画待ちの人に見てもらおう工夫もあれば良い。(受付から図書館側へ列ができていたので) ○もう少し出展者があったら良い。 ○多目的ホール内の配置と、ロビーでの出展方法と位置を変えたほうが良いのでは。 ○来場者が身近な人が多いという理由もあるかと思うが、不特定多数を対象にしているブースは少ない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○来場者は関係者がほとんどと思われた。男女共同参画をもっと知ってもらうためには、他のイベントとの合同開催等を検討する必要があると感じた。 ○周知の強化の必要あり。フェスティバル自体を知らない人が多い。(「周知強化」という意見2人) <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○受付の位置を考慮する必要あり。 ○受付を2箇所にしてはどうか。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○来場者アンケートは多目的ホール入り口で渡すと良い。(総合案内をスルーする人もいるので) ○映画前にアンケートを提出する人が70～80人いた。映画鑑賞のみの人のアンケート内容を考える必要あり。

	<p>○今回のフェスティバル内で、参画推進プランについて取り上げてないと思うので、アンケートの質問がわからない人が多いと思う。</p> <p>○アンケートの「映画上映」の欄に「見ていない」を追加する。</p>
	<p>○パネル設営と片付けがいつも大変。(カラー分けした納庫に入れる作業等) 規格同じならカラー分けする必要はないのでは。</p> <p>○机等壊れているものもあり、修理の必要を感じた。</p>
	<p>○駐車場の案内をもっと出したほうが良い。</p> <p>○映画上映中、委員の方々が手持ち無沙汰で時間がもったいなかった。</p> <p>○女性の人権とか、ジェンダーギャップとかマイノリティ養護観が多く正直一般受けしないネガフェス状況。(否定はしませんが、そもそもの趣旨とずれていませんか?) 少し視点を替えましょう。どうしたら男女がお互いに尊敬しあえるのか? 少しお金をかけて、バーチャル女性体験&男性体験ブースを作ってお互いの事情を思い知りましょう。</p>

映画「そして父になる」上映について

開催時間	<p>○開場、開演時間はこれしかない。(「妥当」という意見5人)</p> <p>○開場を待っている人が多かったが、現場の対応で開場時間を早めたのは良かった。</p> <p>○開場30分前に受け付け設営するのが常識。行政が15分前に決めたのは準備の都合上通例やらない。</p> <p>○映画を観に来た人にフェスティバルを理解してもらう主旨ならば、映画を午前中にやったほうが良いのでは。</p> <p>○もう少し早い時間から始めてもいいのでは。(例えば 12:30 開場、13:00 開演)</p>
映画の内容	<p>○大変良かった。(「良かった」という意見7人)</p> <p>○選択肢から言ってベター。観客の反応も良かったようです。</p> <p>○あまり広く公開されていない作品を、との考え方もあるが、フェス自体を知ってもらうためにも、今回の選択は良かった。</p> <p>○一年前からアンテナを高くして「市民に男女共同参画の視点ある映画を提供する」を視野に入れ、検討できると良い。</p> <p>○内容は良かったが、画面が少し暗く、見づらかった。</p>
その他	<p>○これからも内容の良い人気のある作品であれば、多くの人が来場することがわかった気がする。</p> <p>○ある程度人気のある作品を選ぶ。</p> <p>○無料でなくても?という意見もあった。</p> <p>○観たかったけど整理券がなかったという声があった。</p>

第7回男女共同参画フェスティバル

出展者アンケート結果

○日時：平成26年8月24日（日）10:00～16:00

○場所：田原文化会館

○出展団体 26団体（131名）

○アンケート回収率：92.3%（24団体）

1 フェスに参加してみてどうだったか

回答	団体数
とても良かった	8
まあまあ良かった	11
ふつう	2
少し悪かった	3
とても悪かった	0
無回答	0

2 開催時間について

回答	団体数
ちょうどよい	20
短い	2
長い	2
無回答	0

3 時間帯について

回答	団体数
午前中心でよい	16
午後のみでよい	0
終日開催	4
10時から15時	4
無回答	1

意見

○映画が始まるとブースに人がまったくいなくなるので、ブースは午前中だけでもよいのでは。

4 出展場所について

回答	団体数
とても良かった	8
まあまあ良かった	11
あまりよくなかった	4
よくなかった	0
無回答	1

4-1 出展場所がよくなかった理由

○「人が思うように集まらなかった」2団体

○その他意見

- ・ 物品販売ブースはステージの近くより遠い方がよいのでは。
- ・ ステージといすの列に近すぎると、人の流れがさえぎられるので、バザーなどは少し都合が悪かった。
- ・ 入って正面は、手作りコーナーで目を引いて、ブースの配置も考え文化ホール前へもブースを置いてもいいのではないか。
- ・ ホールの入り口を入ったところから全体を感じられるレイアウトを考えたい
- ・ 多目的ホールにブースが少なく、人がまばらな印象になっていた。配列を工夫し、展示と販売とを分けた方がよいかと思う。

5 こんなものがあればよかったと思う資材は。

○脚立（家庭用のもの）パネル展示の画鋏使用に便利。

○パネル展示の機材を扱いやすいものに替えてほしい。設置、撤去に時間がかかりすぎる。

6 映画上映はどうだったか。

回答	団体数
良かった	8
ふつう	1
よくなかった	0
映画は観なかった	13
無回答	2

7 次回のフェスティバルについて

回答	団体数
ぜひ開催してほしい	16
内容を工夫すべき	7
開催しないほうがよい	0
無回答	1

意見

- ・ 来場者を増やせるメニューを考えてほしい。
- ・ 多目的から出て展示、ロビーを大胆に活用。
- ・ 地域コミュニティ代表（各校区）の出席により議論をしてほしい。
- ・ 小さいお子様が楽しめる企画があるともっと良いのでは。

7-1 いつごろの開催がよいか。

- 夏（7月頃）：3団体
（8月頃）：8団体
- 秋（11月頃）：1団体
- 真夏・真冬以外：1団体
- いつでも：6団体

8 他団体と交流できたか。（複数回答可）

回答	団体数
各ブースをまわっていろいろな話が聞けた。	8
話す時間はなかったが、展示は見ることができた。	6
ブースをまわる余裕はなかった。	2
自分はまわれなかったが、他団体が来てくれた。	4
他団体と交流する気はなかった。	0
その他	0

その他意見

- もう少し集客できるといい。ステージも展示もよい内容のものが増えている。野菜物販売のええ ZONE さんも入ってくださって嬉しかった
- フェスティバルの目的が、他団体との交流なのか、市民への発表や参加の場なのか不明な印象を受けた。（参加団体の方以外ほとんど見かけなかった）
- 子連れだとゆっくりブースをまわってられないので、子どもが楽しめるステージとかがあるといいかなと思った
- ステージ発表内容は立派なものが多いが、観客は席に座しているので、聞くだけではあきてしまう。
- 若い方の来られる率が少なかったように思える。若い方が興味を持ってもらえるような企画があれば良いのかなと思う。
- 多目的ホールでは午前中のステージ発表で来場者との会話に不自由さを感じた。上映会の後の時間がとてもあわただしい。
- 多目的ホールがわかりづらい事もあるが、フェスに来た知人に聞くと、ホールでパン、野菜などがメインで多目的まで足を運ばず、映画を観て帰ったと言われ、今一度考えてみたいと思った。
- 他のよく似たイベント、同じような目的のあるイベントと例えばしみんの広場と協働できないか。

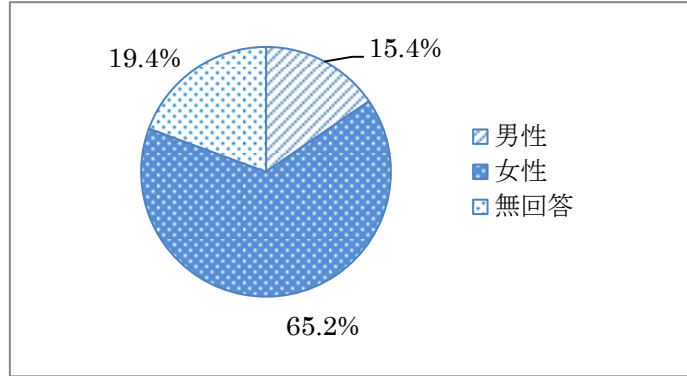
第7回男女共同参画フェスティバル 来場者アンケート結果

■ イベント概要

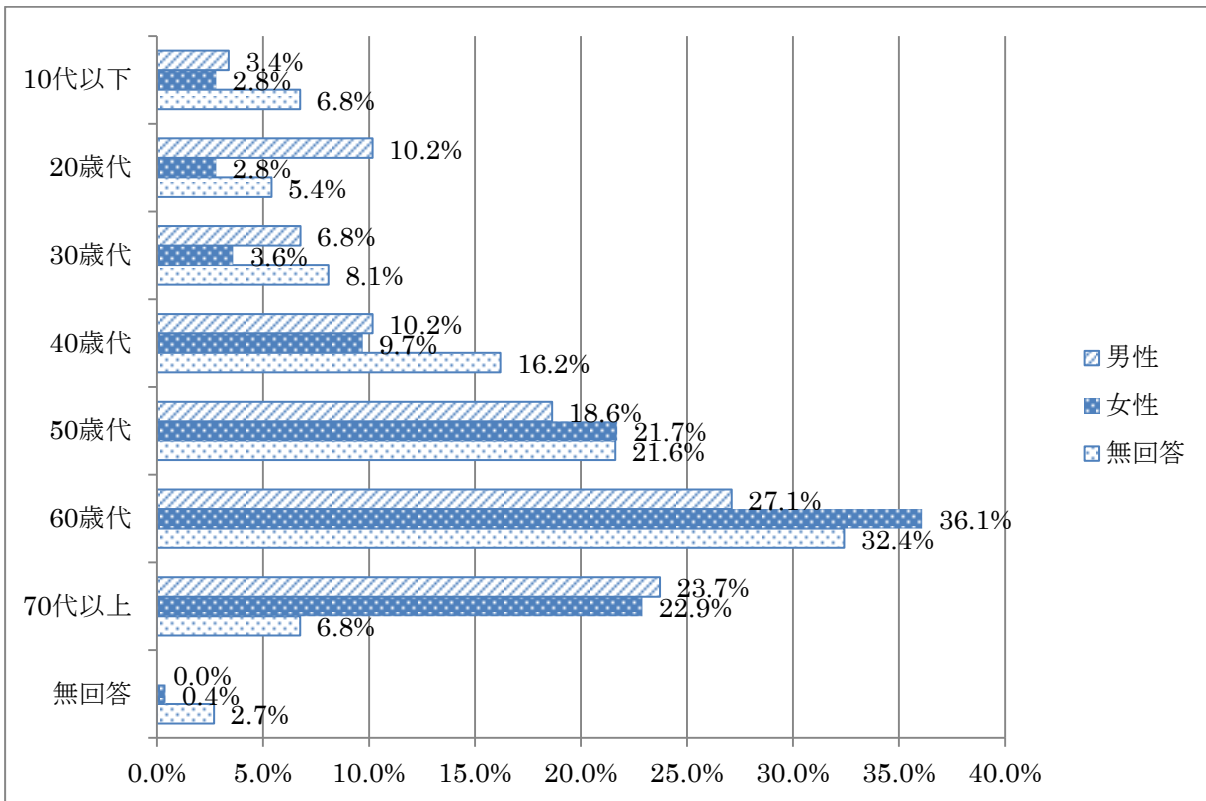
日時・場所	平成26年8月24日(日) 10:00~16:00@田原文化会館
全体来場者延べ人数	約600名
アンケート回収数	382 (回収率: 63.7%)
参加団体数(人数)	26団体(131名)
映画入場者数	330名(昨年度: 242名)

1 性別

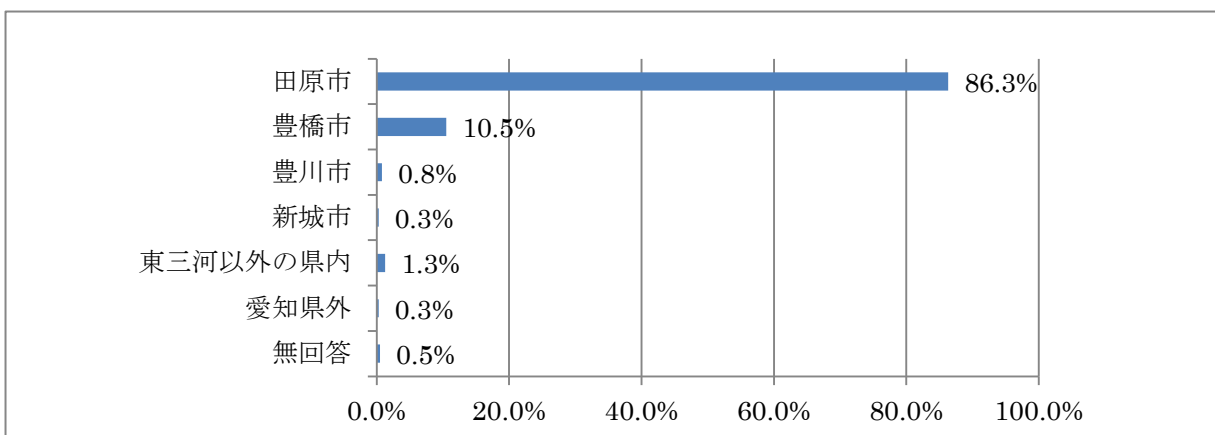
男性	59名(15.4%)
女性	249名(65.2%)
無回答	74名(19.4%)
合計	382名



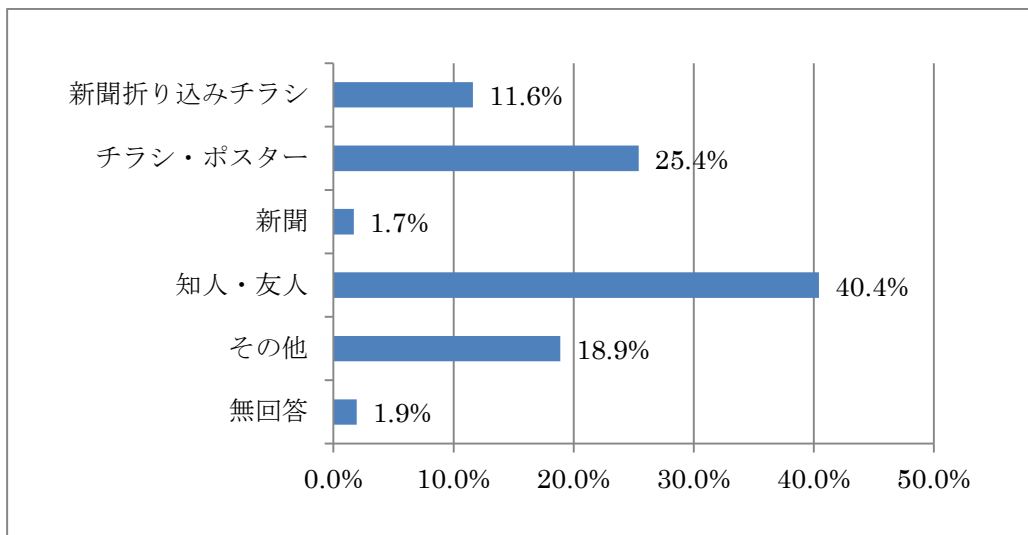
2 年代



3 どちらにお住まいですか？



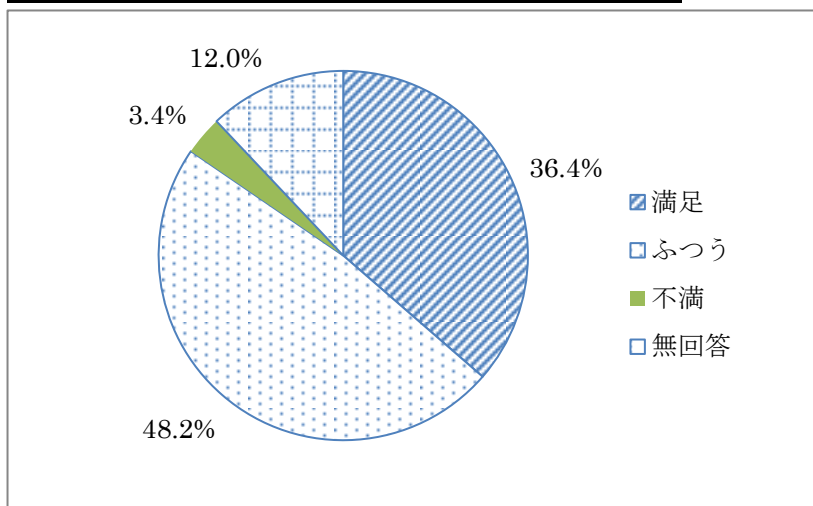
4 フェスティバルをどこで知りましたか？



「その他」の主な内容

- 広報たはら ○参加者・参加団体 ○図書館・文化会館来館者 ○家族・母親

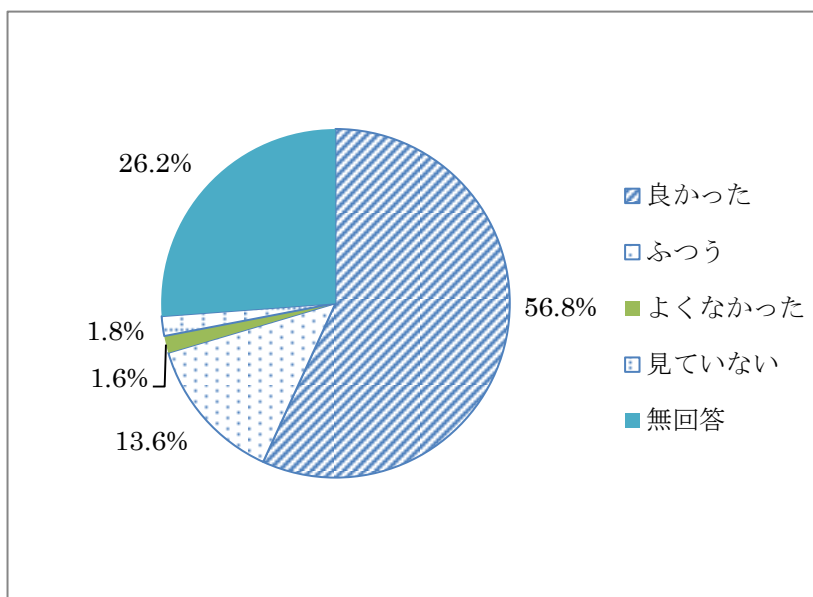
5 フェスティバル（全体）はいかがでしたか？



「不満」の主な理由

- 訪れる人が少ない（3人）
 ○午前中の人出が少ない
 ○子供向けがない
 ○一般参加者、発表を聞く人が少ない。
 ○音響悪く、聞こえにくい。
 ○出展が少ない
 ○盛り上がり足りない

6 映画「そして父になる」上映はいかがでしたか？



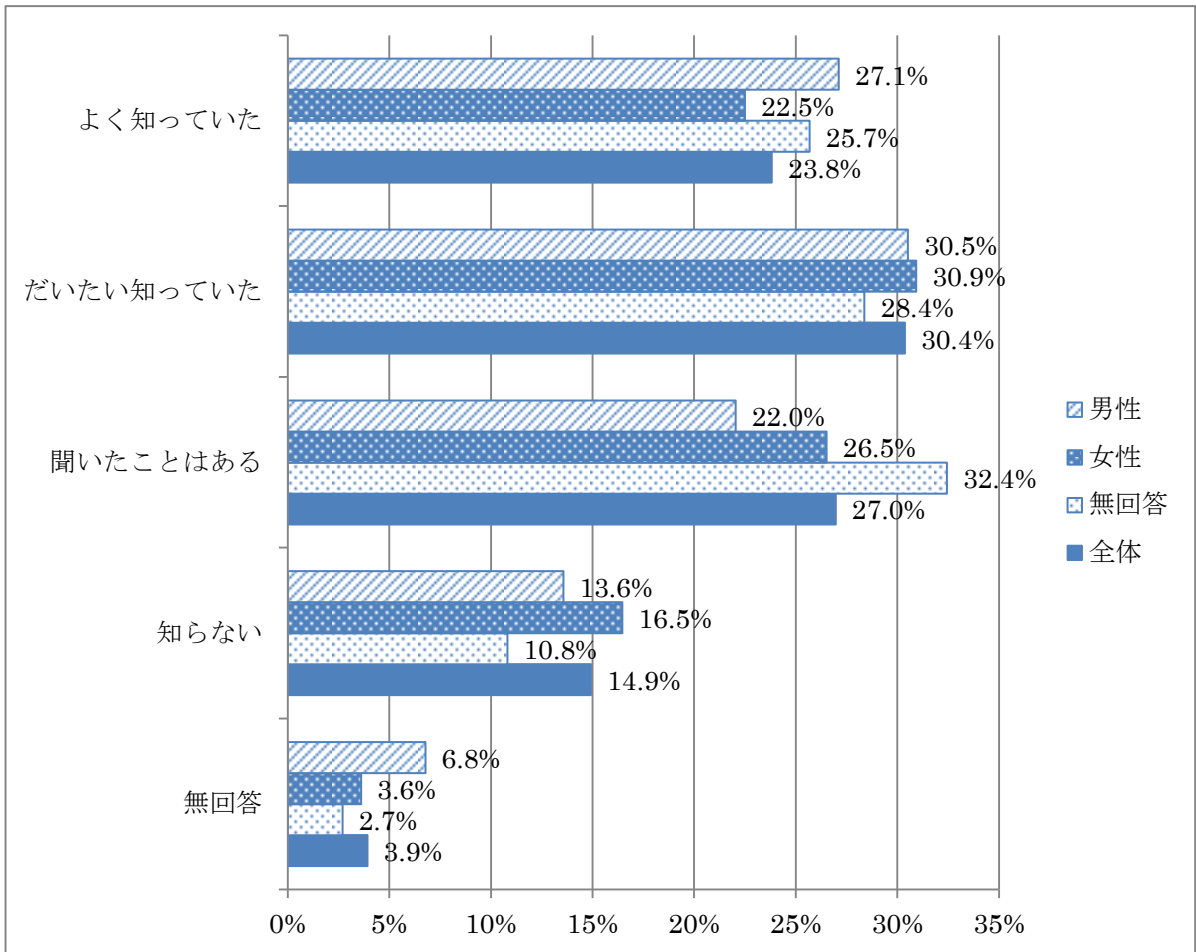
「良かった」の主な意見

- 映画に感動した。
 ○観たかった作品だった
 ○親になる覚悟、愛・絆の大切さを実感！

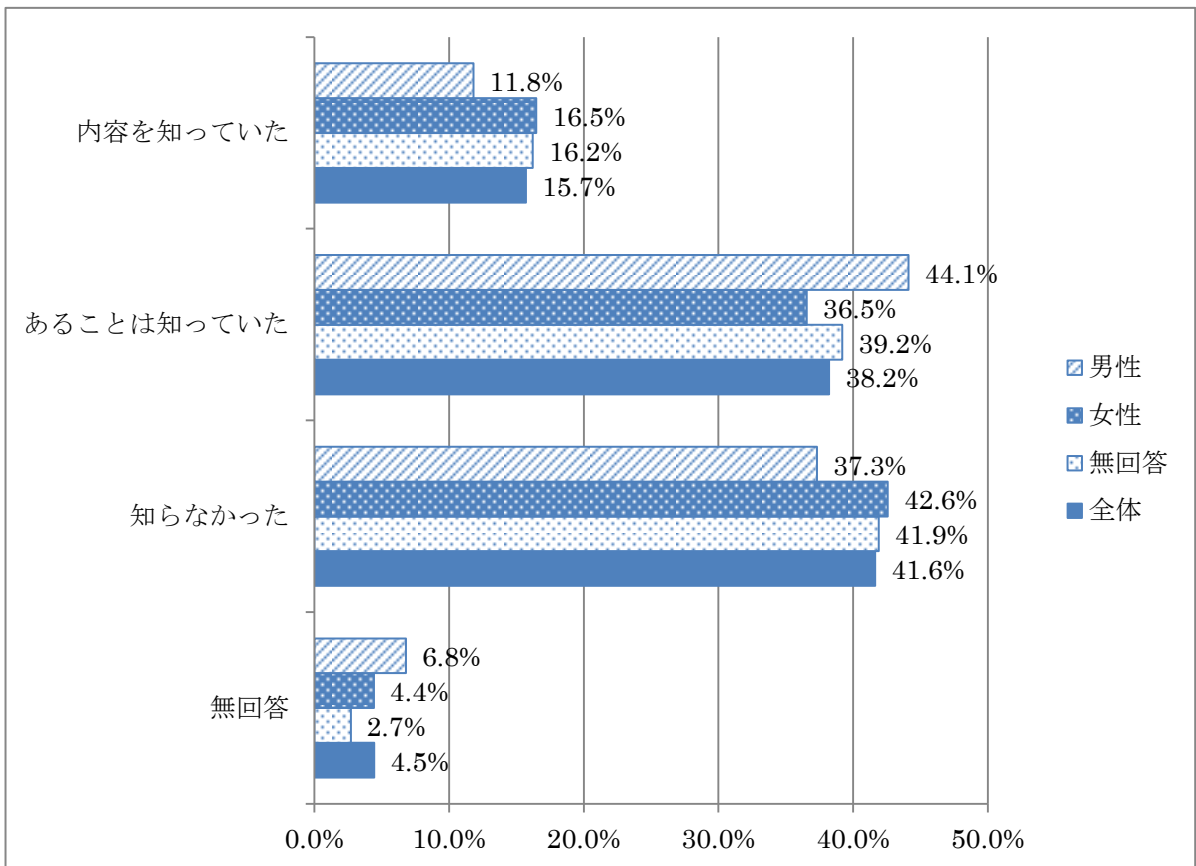
「よくなかった」の主な理由

- 整理券が取れなかった。
 ○整理券が取れなかった（1人4枚の整理券は多いのでは？）
 ○終了後、明るくしてほしい

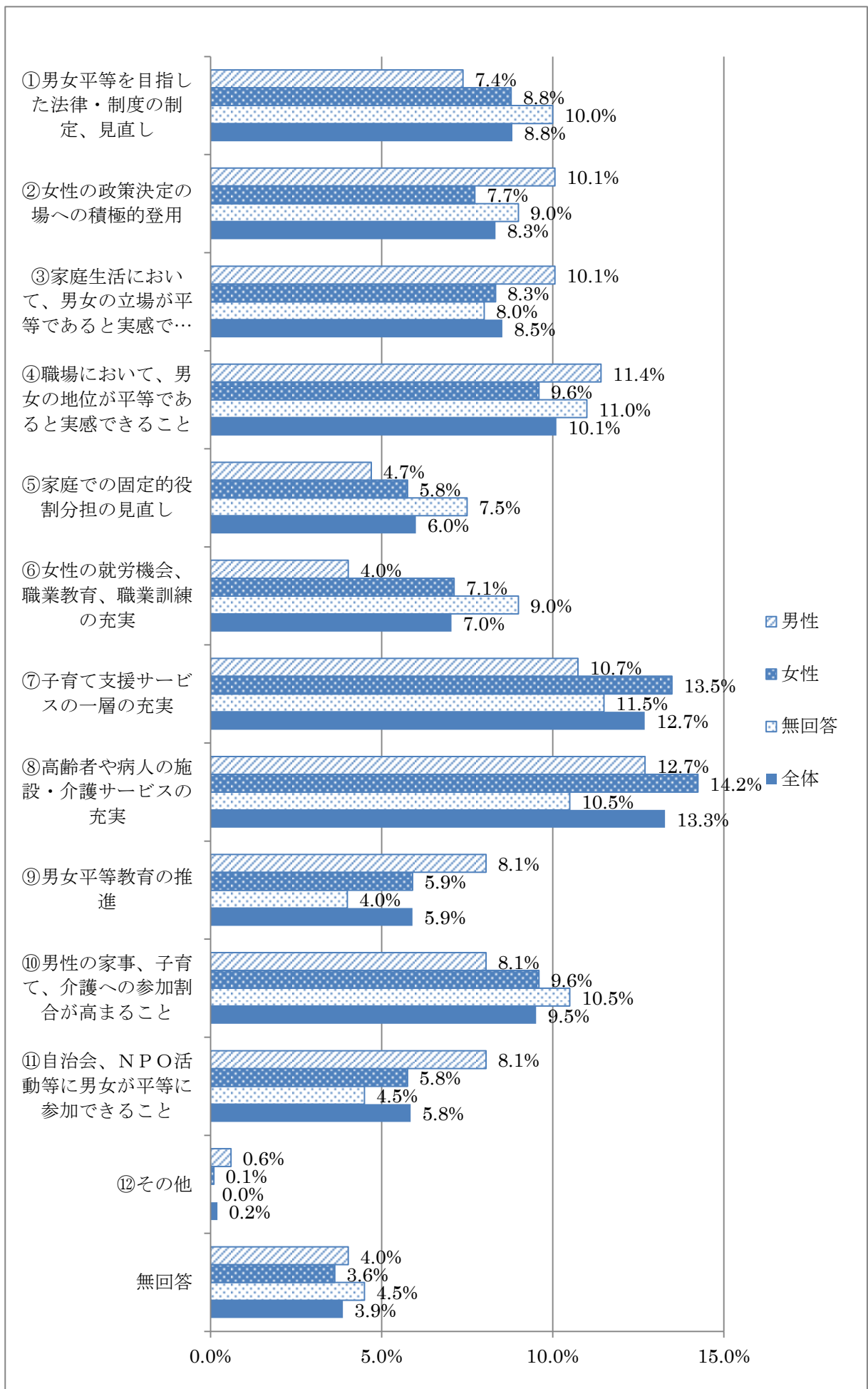
7 「男女共同参画」という言葉を知っていましたか？



8 「田原市男女共同参画推進プラン」を知っていましたか？



9 男女共同参画社会の推進のため、最も重要だと思うものは？（複数回答可）



その他意見（フェスティバル全体について）

（年代・性別）

- ステージ発表①聞きとりにくい。②内容を分かりやすく、短くした方がよい。③多目的ホールのスピーカーの配置が良くないのでは？（70代以上男性）
- 子供さんの数が少ないと感じた。小さいときからこの会に参加することが、より会の意義が浸透するのではないかと思った。（60代女性）
- 販売等も賑やかで、手頃な値段で良かったです。（60代不明）
- 子供が楽しめるイベントがないと、親子そろって出掛けてみよう！と思わないのではないかと感じました。多くの方にお越し頂きたいです。（40代女性）
- 参加人数は、映画を除いて少なかったように思う。（60代不明）
- テーマを明確に。発表の場を、内容がもっと伝わるようなものに（音、場の構成でせつかくの発表がもっと活かせるように）（60代女性）
- 豊橋は、このような活発な男女共同を主とした催しはないように思います。機会があれば又参加したいです。（50代女性）
- このような行事は、とても良い事だと思います。これからもお願いします。有難うございました。（60代不明）
- もっと多数の方が見えているかと思いましたが、とっても人が少なくて残念に思います。（60代女性）
- 準備等大変ですが、楽しい催しを企画していただきましてありがとうございます。（60代女性）
- とても良い団体です。もっとみんなに知ってもらいたい。（20代男性）
- 子供向けのクラフトや遊び関係など、もう少し力を入れて欲しかったと思う。（40代女性）
- 今後も継続して欲しい。（60代男性）
- もっと市民がフェスティバルがある事を知る事。知らない人が多い。午前中に楽しみがある物があると良いと思う。体験できるもの。（70代以上女性）
- チラシを見て「男女の集団見合いかしら？」と思った人がいた。内容が理解できるチラシに工夫したい。（60代男性）
- とても良かったです。（60代女性）
- 関係者以外の来場者が少ない。（映画の時に多くなった。）（60代女性）
- このような企画を定期的に行って欲しい。（50代男性）
- ステージ発表は、動と静の変化があると良い。例えば、語り～ダンス～語り～トレーニング～体操等、工夫したいね。（70代以上女性）
- 私の知人田原市在住が、今日有ることを知らないと！前日私が来て欲しいから電話をして知りました。宣伝方法をもう少し考えなくては。（60代女性）
- 男性の参加が少ない。（60代女性）
- フェスティバル主要会場のマイクが悪いのか、皆どの人の声も聞きづらかったです。いろいろな方が自分たちの市のこと、自分たちの生活を考えて活動されていることがわかりました。（60代女性）
- ブース参加は、いろんなイベントへの参加で、その機会を創出してはどうかと思う。男女共同参画の原点について、この地域の課題など話し合うシンポジウム開催を企画してはどうか。（50代女性）
- 楽しかった。（10代以下女性）
- フェスティバルは回覧板等で知ってはいたのですが、なかなか興味もわかず今まで参加した事があ

りませんでした。初めて参加してビックリ！！こんなにも多くの団体、又は地域の人が参加しているのを見て、考えを改めました。参加して良かったです。いろいろ勉強になりました。もっとしっかり知りたい。(50代女性)

○一般の動員数が少ない。(70代以上女性)

○私と同様、このフェスティバルがどういうものか知らない人が多いと思う。もっと一般の人に理解してもらえる方法を考える必要があると思う。(60代女性)

○来年以降も開催して下さい。(60代男性)

○出展者が減少？少し寂しい感じがした。子供、学生の若者の姿が少なかった。(40代女性)

○フェスティバル参加者は女性ばかりで、男性の参加がもう少し欲しいと思う。(50代女性)

その他意見（映画上映について）

（年代・性別）

○100人入場券を出しても100人は来ません。開場5分くらい前には、券がなくても入れてあげて欲しい。立ち見でも、見たい人は見たいのです。(70代以上女性)

○ちょうど観たい映画だったので、大変嬉しかったです。(50代女性)

○映画とても感動的で良かったです。(50代女性)

○映画券をもらいに行ったらなかった。(50代男性)

その他意見（男女共同参画社会全般について）

（年代・性別）

○低年齢児保育、病児・病後児保育について、保護者が子供と過ごせる、休むことのできる社会になるようバックアップして欲しい。(質問8への意見) (50代女性)

○市議会に女性が立候補出来る地域づくりが大切 (60代女性)

○男女平等なんて無理 (70代以上女性)

○子育てに対する支援が、他自治体に比べて良くないのでは？ (40代男性)

○産休、育休、時短が男女関わりなくとれること。それが当たり前の世の中になること。(質問8への意見) (30代女性)

○しかし、男には男の役割、女性には女性の役割がある(設問8への意見) (50代男性)

○男女共同参画と言えども、それぞれの役割があるので、それを踏まえて、男女仲良く役割を生かして欲しいと思います。(70代以上女性)

○共同参画！言葉が、難しい。中味が良くわからない。活動の目的をもう少し具体的に分かるように周知させた方がよい。(60代男性)

○男女共同参画啓発活動(行事)の推進をより積極的に今後お願いします。人口の半分は女性。男女の意識改革が重要です。(60代不明)

男女共同参画推進プランに基づく平成27年度実施予定事業

第1項 人権尊重と男女平等の意識づくり

■推進施策の成果指標

プラン頁	担当課	プラン事業名	事業内容	H27年度実施予定事業	
1	13	人事課	男女共同参画関連講座等の開催・支援 偏った慣習等の問題提起 他	男女共同参画職員研修の実施 (対象者、実施時期未定)	
1	13	市民協働課		・男女共同参画フェスティバルやほーもん講座等を開催するとともに、パンフレットや広報誌を作成・配布し、あらゆる世代・立場の市民や市職員への意識啓発を行う。 ・市職員向け研修会等を開催し、職員の意識改革を行う。	男女共同参画フェスティバル開催(8月予定) 市民活動団体と一般市民との交流、女性の生き方等をテーマとした映画上映、講演を通して、市民への意識啓発を図る。
2	13	子育て支援課	家庭相談事業	市役所子育て支援課及び渥美福祉センターに各1名家庭相談員を配置し、子どもの養育やDVなど、家庭内の諸問題に対して相談対応を図るとともに、要保護児童及び要支援家庭の見守り、訪問活動を実施する。	【継続】 通年どおり実施
3	13	子育て支援課	児童虐待防止事業	要保護児童対策地域協議会(代表者会議・実務者会議・個別ケース検討会議)の運営により、児童に関わる各機関の連携と役割分担を充実し、児童虐待等の早期発見と必要な支援、市民啓発を実施する。	要保護児童対策地域協議会については通年どおり実施 全小中学校、保育園、幼稚園の児童生徒を対象に虐待予防に関するチラシを配布 主任児童委員と共同で児童センターまつりにて虐待予防PRを行う
4	15	文化生涯学習課	青少年健全育成事業	地域づくり活動推進交付金として、校区の青少年健全育成活動を支援する。	【継続】 前年どおり継続実施
5	16	学校教育課	男女共同参画に関する教職員研修	教職員研修の中に、男女共同参画の視点に立った内容を盛り込む。	【継続】 子どもたちの健やかな成長を願う会開催(6月) 教職員会、PTAと共同で開催し、各種の専門家の講演を通して、市民への意識啓発を図る。

第2項 誰もが参画のまちづくり

■推進施策の成果指標

プラン頁	課名	プラン事業名	事業内容	H27年度実施予定事業	
1	21	地域福祉課	審議会、委員会等の女性の登用推進	民生・児童委員の活動を支援する。女性委員の割合に配慮する。	【継続】 平成25年度一斉改選済み。任期途中の交代時には女性委員の割合に配慮していく。
2	21	地域福祉課	審議会、委員会等の女性の登用推進	保護司の活動を支援する。女性委員の割合に配慮する。	【継続】 平成27年度13名の任期満了(うち8名は平成26年度中の推薦)。女性保護司の割合に配慮していく。
3	21	地域福祉課	審議会、委員会等の女性の登用推進	人権擁護委員の活動を支援する。女性委員の割合に配慮する。	【継続】 平成27年度1名の任期満了。女性委員の割合に配慮していく。
4	21	教育企画室	審議会、委員会等の女性の登用推進	教育委員会委員の女性委員の割合に配慮する。	【継続】 平成27年度、1名任期満了。女性委員の割合に配慮していく。
5	23	市民協働課	地域活動への女性の参画促進	地域を代表する団体等の代表者・役員への女性の登用促進	【継続】 地域コミュニティ連合会の部会である地域コミュニティ活性化研究会において、女性の地域参加を促進する策を検討していく。
6	25	防災対策課	防災に関するワークショップ、研修会等の開催	防災講習会、ワークショップ等に積極的に市民の参加を促進する。	【継続】
7	27	環境政策課	環境分野の会議等への女性の登用促進	環境分野への女性の参加、会議への委員登用を促進する。	環境審議会委員、菜の花エコ推進協議会、たはらエコ・ガーデンシティ地域協議会の女性比率に配慮
8	27	環境政策課	地域団体における環境啓発活動	NPO団体の支援、育成を行う。	NPO団体の女性会員比率に配慮

第3項 生涯安心の暮らしづくり

■推進施策の成果指標

プラン頁		課名	プラン事業名	事業内容	H27年度実施予定事業
1	35	健康課	健康づくり事業	健康に対する意識を啓発するとともに、健康について見直す機会を提供する。	健康まつりの開催
2	35		特定健診後の保健指導	特定健診受診結果により保健指導を行う。	【継続】積極的支援・動機づけ支援の実施
3	35		健康診査及びがん検診	健康診査、人間ドック、各種がん検診、骨粗しょう症検診、歯の検診等を実施する。	【継続】
4	35		健康教育	病態別教室、運動教室、人間ドック説明会、一般健康講座等を実施する。	【継続】
5	35		訪問指導	健診の結果、生活習慣の改善の必要な方等に訪問指導を実施する。	【継続】
6	34		健康診査の実施	4か月児・1歳6か月児・3歳児を対象に健康診査、栄養相談、歯科健診(3歳児)を実施する。	【継続】虐待の早期発見を目的に未受診者対応マニュアルを運用。
7	34		母子健康手帳交付	母子健康手帳の交付とその活用法を紹介する。	【継続】
8	34		パパママスクール(育児体験コース)	パパの妊婦・育児体験等を通して男性の育児参画を促進する。	【継続】沐浴実習、妊婦体験の他、グループワークも継続実施。
9	34		育児相談	乳幼児、妊産婦を対象とした身体計測、健康相談、栄養相談、母乳相談、離乳食相談、歯科相談を実施する。	【継続】
10	34		家庭訪問	新生児、乳幼児、妊産婦のいる家庭へ訪問し、保健指導・身体測定・相談等支援を行う。	【継続】必要時関係機関と連携して継続実施。
11	34		予防接種	乳幼児、児童生徒を対象に予防接種を実施する。 乳幼児:ポリオ、3種混合、MR、BCG、日本脳炎、ヒブ、小児用肺炎球菌 小学生:2種混合、日本脳炎 中学生:MR、子宮頸がん 高校生:MR、子宮頸がん	【継続】
12	34		外国出身ママお料理クラブ	外国人母子の交流会を通して、地域や家庭での孤立を防ぐ。	【継続】

第3項 生涯安心の暮らしづくり

■推進施策の成果指標

プラン頁	課名	プラン事業名	事業内容	H27年度実施予定事業
13	36	介護保険事業	要支援、要介護状態になる前に介護予防事業を実施し、要介護状態への移行を防止する	【継続】 介護を必要としない高齢者の割合を増加できるよう介護予防事業を充実する。
14	36	介護保険事業	全高齢者を対象とする介護予防事業	【継続】 ボランティアの育成等を行ない介護予防事業を広げ、参加者を増加させる。
15	36	介護保険事業	地域包括支援センターによる総合的な相談支援業務を行う。(権利擁護事業、ケアマネジメント事業を含む。)	【継続】 地域包括支援センターを2箇所から3箇所に増加し、高齢者の支援体制を強化する。
16	37	介護保険事業(介護教室)	要介護者を介護する家族に対し支援事業を行う	【継続】 介護者の負担軽減を目的に介護教室を実施する。
17	37	高齢福祉課 高齢者福祉サービスの充実	社会的支援が必要な高齢者に対し、家事や軽作業など日常生活上の援助をすることにより、高齢者の自立した計画の継続を可能にする。	【継続】 シルバー人材センターの高齢者の就業の機会の提供と高齢者が安心して暮らせる環境整備を実施する。
18	37	高齢者福祉サービスの充実	調理が困難なひとり暮らし高齢者等を対象に、昼食を週5回届けることにより栄養改善並びに安否確認を行う。	【継続】 高齢者の栄養改善並びに安否確認の目的で実施する。
19	37	高齢者福祉サービスの充実	高齢者の使用している寝具を、乾燥消毒し、衛生管理を行う。	【継続】 高齢者が安心して生活できる環境整備と家族の負担軽減を目的に実施する。
20	37	高齢者福祉サービスの充実	65歳以上の高齢者が、在宅で生活をしやすいように住宅を改修する費用の補助を行う。	【継続】 高齢者が安心して生活できる環境整備を目的に実施する。

第3項 生涯安心の暮らしづくり

■推進施策の成果指標

プラン頁		課名	プラン事業名	事業内容	H27年度実施予定事業
22	37	地域福祉課	高齢者福祉サービスの充実	認知症や知的障害等により福祉サービスを利用する際の権利を守るため成年後見制度の利用支援を行う。	認知症や知的障害等により福祉サービスを利用する際の権利を守るため成年後見制度の利用支援を行う。
23	37		障害者生活支援センター	市内で生活する障害者の方が自立した生活ができるよう支援する。センターは赤羽根福祉センター内に事務所を設置し、運営を事業所(さわらび会)に委託する。業務内容は、生活・就労支援、福祉サービスのコーディネイト、障害福祉サービス体験、各種教室、サロン事業の開催など	市内で生活する障害者の方が自立した生活ができるよう支援する。センターは赤羽根福祉センター内に事務所を設置し、運営を事業所(さわらび会)に委託する。業務内容は、生活・就労支援、福祉サービスのコーディネイト、障害福祉サービス体験、各種教室、サロン事業の開催など
24	37		レスパイトサービス事業	障害児の介護負担の軽減と障害を持つ本人の社会性の向上、生活習慣を身につけることを目的としたサービス。日中レスパイトは、長期休暇(夏・春・冬休み)、赤羽福祉センター、あつみライフランドにて開催、定員5名。宿泊レスパイトは、毎月第3金曜日、Villa うえ〜ぶにて年間12回、定員2名。	障害児の介護負担の軽減と障害を持つ本人の社会性の向上、生活習慣を身につけることを目的としたサービス。日中レスパイトは、長期休暇(夏・春・冬休み)、赤羽福祉センター、あつみライフランドにて開催、定員5名。宿泊レスパイトは、毎月第3金曜日、Villa うえ〜ぶにて年間12回、定員2名。
25	38		母子父子家庭相談事業	母子自立支援員1名を市役所子育て支援課に配置し、日常生活、児童の養育、母の就業等についての相談に対応する。	母子父子自立支援員(H26.10月から名称変更) 【継続】 通年どおり実施
26	38	子育て支援課	母子自立支援事業	母子父子家庭の自立を促進するため、就職に必要な知識、技能を修得しようとする母に対して自立支援給付金、高等技術訓練促進費を支給するほか、パートから正職員に切り替える雇用主に対して常用雇用転換奨励金を支給する。	パートから正職員に切り替える雇用主に対して常用雇用転換奨励金を支給する⇒ 廃止
27	38		母子家庭等日常生活支援	母子家庭等の日常生活を支援するため家庭生活支援員(ヘルパー)を派遣する。(支援内容:家事、育児)	【継続】 通年どおり実施

第4項 働きやすい場づくり

■推進施策の成果指標

プラン頁		課名	プラン事業名	事業内容	H27年度実施予定事業
1	40	商工観光課	事業所に対する男女共同参画の啓発	事業所へ法制度紹介及び女性の労働条件の向上に向けたパンフレット等を配布し、情報提供を行う。	企業や商工会並びに渥美半島観光ビューローを通じて、男女共同参画についてのパンフレット等を配布し、情報提供を行う。
2	40		企業への意識啓発	企業や商工会へ講師を派遣して、男女共同参画についての講話を実施する。	
3	43	文化生涯学習課	児童クラブ(学童保育)	小学校の放課後の児童の安全な居場所づくりを目的として、低学年児童(1～3年生)を対象に児童クラブを開設し、指導員による遊びの指導や生活の場の提供を行う。 (平日:放課後～午後6時、隔週土曜日・夏休み等:午前8時～午後6時)	【継続】 通年どおり実施
4	43		放課後子ども教室	小学校の放課後に帰宅しても保護者がいない市内小学校在学のすべての児童を対象に開設し、指導員による遊びの指導や生活の場の提供を行う。(平日:放課後～午後6時、隔週土曜日・夏休み等:午前8時～午後6時)	【継続】 通年どおり実施
5	43	子育て支援課	児童館運営事業	児童健全育成の拠点的施設として、児童センター及び西部児童館の2所で、児童厚生員による遊びの指導、親子関係へのアドバイス活動等を実施する。また、親子同士の交流の場として有効活用を図る。	西部児童館については閉鎖(児童センターのみとなった) 【継続】 通年どおり実施
6	43		ファミリーサポートセンター事業	育児の援助を受けたい人と育児の援助ができる人が会員となって、有償ボランティアにより子どもの預かりや保育園の送迎等一時的な育児支援を実施する。(料金:平日昼間500円/子ども1人1時間)	【継続】 通年どおり実施
7	43		一般保育事業	田原市に住所を有し保護者の就労や疾病等により保育に欠ける1歳6月以上の児童を、保護者の委託を受けて保育する。 ・平常保育(月～金曜日 8:30～16:30)・自由保育(土曜日 8:30～12:30)・早朝保育(7:30～8:30)	田原市に住所を有し保護者の就労や疾病等により保育に欠ける1歳6月以上の児童を、保護者の委託を受けて保育する。 ・保育標準時間(月～金曜日7:30～18:30) ・保育短時間(月～金曜日8:30～16:30) ・土曜日8:30～12:30

第4項 働きやすい場づくり

■推進施策の成果指標

プラン頁	課名	プラン事業名	事業内容	H27年度実施予定事業
8	子育て支援課	特別保育事業	<p>○長時間保育(第一、漆田、赤羽根、福江、伊良湖岬、北部) 16:30～19:00 (北部のみ16:30～18:00) 利用料 16:30～19:00 → 2,000円/月、16:30～18:00 → 1,000円/月</p> <p>○乳児保育(第一、漆田、赤羽根、福江、伊良湖岬) 生後10月～1歳6月未満</p> <p>○一時保育(南部、赤羽根、清田) 月14日以内(利用料 3歳未満1,500円/日、3歳以上1,000円/日)※1歳6月以上の児童</p>	<p>○延長保育</p> <p>・保育標準時間の保育園(第一、北部、赤羽根、福江、伊良湖岬、稲場、漆田(民間)保育園) 18:30～19:00</p> <p>・保育短時間の保育園(全保育園、漆田(民間)保育園) 7:30～8:30</p> <p>○乳児保育(第一、漆田、赤羽根、福江、伊良湖岬、稲場) 生後10月～1歳6月未満</p> <p>○一時保育(中部、赤羽根、清田) 月14日以内※1歳6月以上の児童</p>
9	子育て支援課	地域子育て支援事業	<p>地域の乳幼児を持つ親子を対象として、育児不安等の育児相談、親子の関わりの援助、子育てのアドバイス、仲間作り等の育児(子育て)支援を目的として事業を実施する。(中部保育園内ひまわりルーム・伊良湖岬保育園内なのはなルーム)</p> <p>出張子育てひろば(赤羽根福祉センター、泉市民館で週1回開設)</p>	<p>中部保育園内ひまわりルーム⇒稲場保育園内に変更</p> <p>【継続】 通年どおり実施</p>
10	農業委員会事務局	家族経営協定の促進	<p>農家における休日や給与、仕事の役割分担と責任を明確にした家族経営協定の締結を促進する。</p>	<p>【継続】 農家における休日や給与、仕事の役割分担と責任を明確にした家族経営協定の締結を促進する。</p>
11	農政課	農林水産業女性チャレンジ支援	<p>女性が農林水産分野にチャレンジできるよう、相談や支援、情報提供を行う。</p>	<p>【継続】 女性が農林水産分野にチャレンジできるよう、相談や支援、情報提供を行う。</p>
12	市民協働課	起業、NPO、ボランティア等発足支援事業	<p>女性が市民活動にチャレンジできるよう、相談や支援、情報提供を行う。</p>	<p>【継続】 女性の起業、市民活動チャレンジに関する情報提供を行う。</p>

推進体制

■推進施策の成果指標

プラン頁	課名	プラン事業名	事業内容	H27年度実施予定事業
1	48	人事課 市職員の男女共同参画に関する研修	市職員向けの男女共同参画に関係する研修を実施し、職員が各事業で男女共同参画の視点に立った事業実施を行うことを目指す。研修参加機会を男女の性差に関わらず提供し、女性リーダー養成研修等への参加を積極的に推進する。	○男女共同参画職員研修 対象者、実施時期未定 ○派遣研修メニューの充実
2		市民協働課 男女共同参画を推進する行政の会議の設置	プラン事業を総合的、効果的に推進するために、事業担当係長による田原市男女共同参画推進プランワーキングを設置し、各担当課のプランの進捗状況を把握する。	【継続】 ○庁内ワーキング会議開催(年3回) 各事業の担当課の取組状況を把握するとともに、全庁的な男女共同参画施策を推進する。
	48 49	市民協働課 市民で構成する組織の設置	市民・団体・企業等からなる田原市男女共同参画推進懇話会を設置し、プランの進捗状況を把握すると共に、幅広い意見を徴収し、男女共同参画の推進に関し、調査審議する。	【継続】 ○懇話会開催(年3回) 各主体の取組状況を報告し、市民への啓発に取り組む。
3		市民協働課 男女共同参画に関する調査体制の整備	男女共同参画に関する各種情報を収集するとともに、市民意識調査を実施する。 (平成28年度の計画改訂を意識する内容とする)	○市民アンケート調査実施(3年に一度/前回調査H23年度実施) H28計画改訂の基礎資料とするため、アンケート実施を1年繰り延べH27実施

市民提案型委託制度【テーマ提示型】 「男女共同参画啓発事業」の実施方針(案)

平成26年6月14日(土)から7月18日(金)にかけて「男女共同参画啓発事業」を公募したところ、応募がなかったため、第23回田原市男女共同参画推進懇話会(H26年10月10日開催)で今年度実施の方針を協議し、決定していきたい。

① 応募団体の要件緩和

5人以上で構成されている団体⇒3人以上

② 実施方針

- (1) テーマを設定し、広く再募集を行う。
- (2) 懇話会委員で作成

③ テーマの設定

(1) 啓発パンフレット作成

【案 男女共同参画の視点からの避難所運営】

平成26年度の男女共同参画フェスティバルにおいて、「安心できる避難所づくり～男女共同参画の視点を避難所運営～」のDVDを上映し、災害発生時の避難所づくりの重要性を再確認した。

男性も女性も避難訓練や避難所運営に参画し、性別や年齢、障害等の有無など様々な方々に配慮した地域づくりを行うことを、広く市民に啓発する。

参考 これまでに市が発行したパンフレットのテーマ

平成25年度	中学生向け
平成24年度	男女が共に支え合い助け合える地域防災活動
平成23年度	農家向け
平成22年度	イクメン
平成21年度	デートDV
平成20年度	小学生向け

(2) 避難所設営訓練等

【案 校区単位等での避難所運営】

DVDの視聴から避難所運営を考え、実際に避難所を設置して問題・課題を抽出し、来る災害への備えについて共通認識を持つことができるような機会の提供をする。